

# 観光学

第11号2022年度  
（2023年3月発行）

JITR-Kansai  
Japan Institute of  
Tourism Research No.11



★日本観光研究学会・関西支部（JITR-Kansai）ホームページ→【 <http://www.kankoryoku.jp/> 】  
ニュースレター『観光学』第11号 2022年度（2023年3月発行）

## 1. 2022（令和4）年度関西支部活動をふりかえって（支部長 小長谷一之）

2022年は、観光業界に甚大な影響を与えてきた約3年近くに及んだコロナ禍が漸くおちついてきた1年となり、感染予防マネジメントをおこないながら、代表的な2大活動（中四国の会員・自治体応援のための「中四国現地研修会」、関西地域の自治体応援のための「地区懇話会」）を無事、現地開催できました。特に、今年は3年に1度のトリエンナーレである「瀬戸内国際芸術祭2022」開催年であり、当方の研修会の4年周期と一致した機会なので芸術祭特集としました。また「意見交換会」も、初等中等教育に「観光ビジネス」科目が入り非常に重要性が増してきた「観光教育」について、中央の責任者や専門家に情報提供をいただき、活発な議論をおこないました。いずれも関心高く多数の参加がありました。関係のみなさまに深く感謝申し上げます。

## 2. 2022（令和4）年度関西支部活動をふりかえって（副支部長 松田充史）

コロナ禍からの回復が着実に感じられるようになった2022年度。関西支部は対策を講じながら活発な活動をおこないました。6月に第19回意見交換会「観光教育のこれから」をテーマに実施。さらに9月には瀬戸内国際芸術祭で活気づく小豆島（香川県）で中四国研修会を、11月には地区懇話会を貝塚市と連携しておこないました。また、観光学研究部会を2回（関係人口と観光・定住、中国の特色ある民宿の発展と観光業の変化に対応する日本語観光教育について）、観光サロンを1回（瀬戸内国際芸術祭総説と瀬戸内地域の文化観光）を開催。その他、NPO観光力推進ネットワーク関西の講座や学生発表を学術面から応援いたしました。みなさまの参加がこれらの活動を支えています。ぜひ支部活動のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

## 3. 支部活動1『関西支部総会』および『第19回 意見交換会：関西から観光立国・立国を考える』『観光教育のこれから』（後援：国土交通省近畿運輸局）

【総会】（1）日時：2022年5月21日（土）。17：00～17：30。（2）会場：Zoom。（3）議案 第1号議案・2021年度活動報告ならびに収支決算、第2号議案・2022年度活動計画ならびに収支予算案。無事終了しました。

【意見交換会】（1）日時：2022年6月4日（土）。13：00～15：30。（2）会場：Zoom（※阪南大学あべのキャンパスより配信）。（3）プログラム：1）支部長挨拶・趣旨説明：日本観光研究学会関西支部長 小長谷一之（大阪公立大学大学院都市経営研究科副研究科長・教授）。2）特別講演：「関西における観光政策の現状」国土交通省近畿運輸局 観光部長 岡本昇氏。3）基調講演「高等学校学習指導要領の改訂と観光（ビジネス）教

育」文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 田中圭氏。4）シンポジウム「観光教育のこれから」（パネリスト）岡本昇氏（国土交通省近畿運輸局 観光部長 ※特別講演者）。田中圭氏（文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官、※基調講演者）。鈴木剛氏（四国大学経営情報学部／地域教育・連携センター准教授）。吉田常行氏（大阪商業大学事務局参与、大阪府高等学校商業教育協会事務局）。前田武彦氏（神戸国際大学 経済学部 国際文化ビジネス・観光学科 教授）。（コーディネータ）松田充史（関西支部副支部長・大阪成蹊大学 教授）。2022年度第19回意見交換会は、いま一番注目されている「観光教育」について、中央の担当者と専門家をお招きし開催しました。新高等学校学習指導要領で商業科科目「観光ビジネス」が設置される中、「観光教育」について専門家の議論を行い、多数の参加があり、感心の高さを伺われました。



**4. 支部活動2『地区懇話会』「山～まち～海の多様な「観光魅力」が貝塚のまちの価値を高める－Green & Blue × Food & Culture－」（主催：日本観光研究学会関西支部主催、後援：貝塚市）【日時】2022年11月13日（日）9:15 集合～エクスカーション、14:00～基調講演・シンポジウム【会場】貝塚市役所 6階多目的ホール★「地区懇話会とは？」日本観光研究学会の関西支部で毎年、自治体と連携する地域大会です。近年「定住人口だけでなく交流人口へも注目」という政策で一般的な住宅都市や産業都市でも観光都市を目指すところが増えてきており、これまで、堺市（2016年度）、池田市（2017年度）、河内長野市（2018年度）、尼崎市（2020年度）、高槻市（2021年度）と応援してきました。2022年度は貝塚市で開催することになりました。貝塚市は、山（和泉葛城）から海（大阪湾）まで連なる細長い市域に、自然や温泉、グランピング、海浜公園などのアウトドアフィールド、水間観音や貝塚御坊・願泉寺や寺内町などの歴史、水なすやたけのこ等の食文化、そして、それらを結ぶ水間鉄道など魅力資源がコンパクトに詰まっており、近年それらがリニューアルされつつあります。そうした状況を踏まえつつ、これからの貝塚の「観光」について語り合いました。【プログラム詳細】●第1部：市内見学（エクスカーション）9:15～12:30 ○集合：水間鉄道 貝塚駅改札前（1）水間鉄道の乗車体験（貝塚駅→水間観音）（2）周辺まち並みを歩いて水間観音（3）以降、バス移動、いぶきビレッジ（大阪府立農業公園）（4）二色の浜府営公園・市民の森（5）寺内町・貝塚御坊「願泉寺」●第2部（シンポジウム）14:00～16:30 ○貝塚市長 酒井了氏。○パネルディスカッション＜パネラー＞延生康二氏（延生建設（株）代表取締役社長）。楠本たみ子氏（木積地区タケノコ農家）。黒岩功氏（SDGs LABO 代表）。ト半顕氏（貝塚御坊「願泉寺」住職）。＜コーディネータ＞小長谷一之（日本観光研究学会関西支部長、大阪公立大学大学院都市経営研究科副研究科長・教授）【総括】会場からも活発な提案もあり、最後に以下の点を総括いたしました。1）水間や寺内町など多くの伝統ある観光資源に加えて、自然観光拠点や浜辺・公園マネジメント・グランピング・ドローンなど新しい資源の拡大（ニュー&トラッド観光**

都市貝塚)。天体観測・ドローン・キャンプなど子どもも遊べる学習都市でもある。2) 現在観光の潮流がニューツーリズムに拡大しているが、そのキーコンテンツである「食と農のコンテンツ」「古い街並み歩き観光と町家活用」もそろっている。3) 他の都市と比べても国の進めるコンパクトシティに近く、鉄道で移動できる観光資源が詰まったコンパクト観光都市。「海貝塚（二色浜・寺内町）」「中貝塚（仙石・水間）」「山貝塚（奥水間）」の3エリアが複合で楽しめる。これらの3地域と新旧の複数の観光資源魅力で滞在時間を拡大できる。4) **「ブルー（海貝塚）」の代表、「グリーン+食（山貝塚）」の代表、「食（中貝塚）」の代表、「歴史文化（海貝塚）の代表」**に素晴らしいお話をいただき感謝したい。今回は雨天にも関わらず約70名の大盛況でした。市役所および関係団体のみなさまのご協力に深く感謝申し上げます。（文責：原田弘之）



## 5. 支部活動3「観光学研究部会」

(1) 第1回観光学研究部会 【日時】2022年10月25日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）【テーマ】「関係人口と観光・定住」【講師】田中輝美（たなかてるみ）氏（島根県立大学地域政策学部准教授／ローカル・ジャーナリスト）。



田中輝美 (島根県立大学)

(2) 第2回観光学研究部会 【日時】2022年11月22日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）【テーマ】「中国の特色ある民宿の発展と観光業の変化に対応する日本語観光教育について」【講師】石文（せきぶん）氏（桂林旅游学院（中国）准教授）。



## 6. 支部活動4「観光サロン」

(1) 第1回観光サロン 【日時】2023年1月24日（火）20:00～【会場】オンライン（Zoom）【テーマ】「瀬戸内国際芸術祭総説と瀬戸内地域の文化観光」【講師】但馬智子（たじまともこ）氏（公益財団法人福武財団アートマネジメント部門・キュレーター）（※）（本年度中四国研修会を企画・調整をしていただいた）ベネッセアートサイト直島のアートプロデュースを行う専門家より、研修会と関係し、瀬戸内海の備讃瀬戸を舞台とするベネッセアートサイト直島から瀬戸内国際芸術祭へ至る設立経緯や現場の実践、瀬戸内発の芸術文化と観光との関係、瀬戸内のこれからの文化を通じた観光における展望や課題などについて、幅広くお話しいただいた。



## 7. 支部活動5『中四国現地研修会』『瀬戸内国際芸術祭と小豆島の観光戦略』

【会場】小豆島【日時】2022年9月14日（水）～15日（木）。★集合・解散とも「高松港」。○現地集合：9月14日（水）10時30分、高松港「高速艇乗り場」にて集合。○帰路集合：9月15日（木）17時30分、土庄港にて集合／高松港着後解散。★「中四国研修会とは？」=>日本観光研究学会関西支部では、中四国地域の観光政策担当者との意見交換や中四国地域の会員の参加を念頭に、中四国を舞台とした研修会を開催しています。2014年度は太平洋岸の高知県（黒潮町の砂浜美術館）、2016年度は瀬戸内・四国側の愛媛県（三津浜地区・道後温泉・松山市等）、2017年度は瀬戸内・中国側の広島県（尾道市の町家再生、千光寺山からの坂のまち、しまなみ海道等）、2018年度は日本海側の鳥取県（倉吉・由良等）、2019年度は四国・徳島県内陸部（にし阿波、三好市、祖谷溪観光圏（アレックスカーの宿））、2020年度は高知県（仁淀川流域（日本一の清流「仁淀ブルー」で有名）、2021年度は愛媛県西部（大洲と内子）で開催してきました。第8回目の2022年は、3年に1度のトリエンナーレである「瀬戸内国際芸術祭2022」開催年であり、当方の研修会の4年周期と一致した機会なので瀬戸内国際芸術祭特集としました。瀬戸内国際芸術祭も広大ですので、「西部地域」「中部地域（直島・豊島中心）」「東部地域（小豆島中心）」に3分類し、今回は、地域政策の研究もかねて香川県および土庄町・小豆島町のお力添えで実施いたしました。【1日目】（前半実行委員長：松田充史）高松港に集合し小豆島土庄港へ行き、着後、土庄町市街地の「迷路のまちエリア」作品を視察しました。その後、中部の農村歌舞伎舞台、千牧田を訪れ、午後には東部の「福武ハウス」に行き、意見交換をおこないました。【2日目】（後半実行委員長：堀内史朗・五嶋俊彦）南東部の醤（ひしお）の郷エリアの作品・醤油蔵を視察し、名所寒霞溪を視察、作品を見て創作郷土料理をいただきました。そして、小豆島ふるさと村交流センターにて、町長様、課長様、観光協会事務局長様以下の皆様と活発な意見交換会を実施しました。最後に三都半島エリア作品の視察をおこない、土庄港から高速艇に乗り高松港着後解散いたしました。今回は、受け入れ先の皆様の多大のご協力により、約20名参加のたいへん実り多い研修が実施でき、無事終了することができました。特に、香川県の今瀧課長補佐をはじめとする観光振興課のみなさま、岡野町長をはじめとする土庄町のみなさま、大江町長をはじめとする小豆島町のみなさま、塩出事務局長をはじめとする小豆島観光協会のみなさま、田嶋知子さんをはじめとする福武財団のみなさまに、あらためて、深く感謝を申し上げます。（文責：松田充史）



## 8. 支部活動6 関西支部幹事会開催記録 (2022年度)

- 第1回 2022年4月26日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第2回 2022年5月21日 (土) 18:00～ 会場: オンライン (Zoom) (曜日変更・総会と合わせる)
- 第3回 2022年6月28日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第4回 2022年7月26日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第5回 2022年9月27日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第6回 2022年10月25日 (火) 19:00～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第7回 2022年11月22日 (火) 19:00～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第8回 2022年12月27日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第9回 2023年1月24日 (火) 19:00～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第10回 2023年2月28日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)
- 第11回 2023年3月28日 (火) 19:30～ 会場: オンライン (Zoom)

## 9. 支部活動7 NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」の応援と協働

### （1）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（理事長挨拶）原一樹

社会全体がコロナ禍からの回復過程にあった2022年度、NPO活動も或る程度コロナ禍前の形を取り戻すことができました。観光マネジメント講座は本年度までオンライン開催としましたが、学生連絡協議会の学生達は、城崎温泉就業研修、貝塚市ワークショップ、京都・嵐山での歴史文化体験、大阪・岸和田での自然体験、6大学14チームが対面で参加した第9回学生研究発表会など、様々な形で観光学修や交流に取り組みました。国際観光・国内観光が再活性化する2023年度、更に活発に取り組むを進めていければと考えています。

### （2）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（副理事長挨拶）小長谷一之

2022年度は、毎年恒例の「歴史文化体験」「城崎研修」「研究発表」の3事業に加え、学会でも応援した「貝塚市とのワークショップ」、「岸和田での自然観光体験」などの地域プロジェクトの企画があり、例年になく一層活発に活動をおこないました。関係のみなさまのご協力に感謝いたします。今後とも宜しく申し上げます。

### （3）NPO法人「観光力推進ネットワーク・関西」本年度を振り返って（副理事長挨拶）高根沢均

2022年度はようやくコロナ禍を乗り越えて観光が本格的に再始動するなか、NPOとしても活発に活動を展開することができました。城崎での宿泊研修・インターンシップ体験をはじめ、秋の京都歴史文化体験に加えて、あらたに冬に自然体験として岸和田市でのミカン収穫体験を実施し、貝塚市の後援利活用ワークショップにも参加しました。また2月の学生研究発表会も3年ぶりに対面で開催し、観光を学ぶ各大学の学生が多数集まって研究交流を行うことができました。2023年度も引き続き活発な活動を目指していきたいと思っております。

### （4）第17回「地域創造のための観光マネジメント講座」の開催（今年はオンラインで3日間）

【日時】★全8回3日間すべて土曜（2023年1月7日・21日・28日）【会場】オンラインZoom。【プログラム】  
●第1日目1月7日（土）【ステップ1：地域創造型観光の基盤：地域資源の再発見と再評価の方法】第1回（13:00～14:10）  
「「地」の観光としてのエコミュージアム」吉兼秀夫（京都外国語大学特任教授）。第2回（14:20～15:30）「見えない宝を探し、創り出すコンテンツツーリズム」原一樹（京都外国語大学教授）。第3回（15:40～16:50）「ヘルスツーリズムと地域創造」辻本千春（流通科学大学非常勤講師）。●第2日目1月21日（土）【ステップ2：地域創造型観光の計画：地域資源の観光への活用方法】第4回（13:00～14:10）「観光マネジメントとまちづくりの計画」小阪昌裕（地域計画建築研究所主幹）。第5回（14:20～15:30）「プロモーションとイベントの活用方法」桑田政美（大阪公立大学院客員教授）。第6回（15:40～16:50）「地域創造型観光のマネジメント～成功事例からみる7つの原則～」小長谷一之（大阪公立大学大学院教授）。●第3日目1月28日（土）【ステップ3：地域創造型観光の運営：事業継続の方法】第7回（13:00～14:10）「事業推進のための制度の活用と資金の調達」金井萬造（立命館大学客員教授）。第8回（14:20～15:30）「顧客と地域人材のマーケティングCS/NPSと人材コンピテンシーの視点から」森山正（大阪観光大学特命教授）。

### （5）観光力ネット・学生連絡協議会（学連協）の応援

1) 学連協【歴史・文化体験】「和菓子作成体験ツアー」（京都：嵐山）【実施日】2022年11月12日（土）10:30～16:00【参加大学】関西国際大学、神戸国際大学（50音順）【参加人数】8名【当日の行程】JR嵯峨嵐山駅に集合した後、京都の老舗「甘春堂」さんに移動し、1時間半ほど和菓子作り体験を行いました。その後、嵐山中心部がかなりの人出で混雑していたことを踏まえ、当初予定を変更し、門跡寺院として格式の高さを誇る大覚寺を拝観しました。最後に嵐山の竹林や野宮神社を散策し秋の京都を楽しみました。



2) 学連協【地域連携プロジェクト】「城崎宿泊研修」【実施日】2022年①7月2日（土）～3日（日）、②

7月9日（土）～10日（日）【記録】地元の案内人の方と一緒に城崎温泉街について街歩き研究を行いました。7つの外湯のいわれや皇族や有名人の泊まる風格のある旅館の説明など、町の歴史と特色について知識を深めることができました。また、周辺地域観光プランのためのEVバイクの試乗をしました。



**3）学連協【地域連携プロジェクト】「城崎インターンシップ+研究発表会」**【実施日】2022年①9月1日（木）～6日（火）3名、②9月8日（木）～13日（火）7名、③9月15日（木）～20日（火）10名  
=>発表会10月2日（日）【研究内容】地域を盛り上げるため「外国人誘客に効果のあるFaceBookの活用法」「旅館のバリアフリー化（スロープや滑り止めのアイデア）」「城崎ゲーム企画・キャラクターコラボ・手持ち花火、夏・秋祭り等のイベントのより強力なSNS発信」「伝統工芸、手持ち提灯、農業体験等の体験型観光」「文学観光、アクセス向上（コウノトリ空港から近畿以外の便を増やす）」「若者誘客に効果のあるInstagramの活用（インフルエンサーや高校生、フォトコンテスト、変わった信号やポスト）」等アイデアが出ました。

**4）学連協【地域連携プロジェクト】「貝塚応援のための市民庭園ワークショップ参加」**【実施日】2022年①8月7日（日）、②10月16日、第1回目は市民の皆さんと「市民庭園」の利活用の方法について活発なディスカッションをおこないました。第2回目は、参加学生達がモニターとなり、「朝市・夜市」「カフェ」「子ども遊び場」としての庭園の利活用研究を、社会実験としておこないました。



**5）学連協【地域連携プロジェクト】「岸和田における自然観光体験」**【実施日】2022年12月3日（木）初の試みとして自然体験を実施しました。岸和田市にある北阪町観光農場にて「みかん収穫体験」を行いました。「カフェスペース」「素人向けレクチャー」「インスタ映えスポット」等のアイデアが出ました。



**6）学連協【学生研究発表会】**【実施日】2023年2月13日（月）12:30～18:30。【会場】阪南大学あべのハルカスキャンパス【概要】16チーム、参加大学は7大学でした。【発表例】「持続可能な観光の情報発信（Z世代と外国人観光客）」「韓流ブームとコリアタウンの関係性」「B&Sプログラム・イン・高槻」「天下の台所大阪の食を楽しもう！」「観光地に関する公式HPのプロモーション戦略」「奈良と神戸の比較」「紹興酒ツーリズム」「三田市インバウンド観光支援」「南あわじ市における観光地域活性化」「いらっしやい 商業とグルメの町」「留学生のアンケートから考える日本のインバウンド旅行」「国際交流バスツアーin奈良」「嵯峨・嵐山における学習コンテンツの提案」「伊丹空港におけるイベントのプロモーション研究」



（写真）4. 支部活動2『地区懇話会』「山～まち～海の多様な「観光魅力」が貝塚のまちの価値を高める」



（写真）7. 支部活動5『中四国現地研修会』「瀬戸内国際芸術祭と小豆島の観光戦略」

